

北アルプス遭難、3人は全員死亡 身元も判明

朝日新聞デジタル 8月18日(月)19時35分

岐阜県高山市の北アルプス・槍ヶ岳（3180メートル）に向かう登山道で、男女3人が大雨で増水した沢に流された遭難事故で、岐阜県警は18日、3人全員の死亡を確認した。いずれも外傷性ショック死だった。

高山署によると、亡くなったのは薬局経営木村桂子さん（51）＝福井県鯖江市深江町＝、無職伊藤修壮さん（67）＝広島県三次市畠敷町＝、会社員上里（あがり）新太郎さん（62）＝同市三次町。事故当時、沢の両岸に伊藤さんと上里さんがそれぞれ立ってロープを張り、木村さんはこのロープを伝って渡ろうとして流され、さらに助けようとした伊藤さんらも流されたという。

木村さんは現場から500メートル、上里さんは2キロ下流の中州で17日に捜索隊が見つかり、天候が回復した18日に運び出された。伊藤さんは18日に約4キロ下流で県警ヘリが発見した。伊藤さんと上里さんの知人の話によると、2人は槍ヶ岳に登ったこともあり、登山経験は豊富だったという。

現場は、高山市の新穂高温泉から槍ヶ岳に向かう登山者が通常通るルート。北アルプスに詳しいNPO法人「山の自然文化研究センター」の山下誠副理事長（65）は、3人が流された滝谷出合付近は険しい地形で、約20ヘクタールの斜面に降った雨が一気に流れ落ち、集まる場所という。「増水すると水流は速く、登山道にかかる高さ1・5メートルほどの丸太橋も流される。水が引くのを待つのが鉄則で、入山前に気象情報を把握することが大切だ」と指摘する。さらに「30～40センチの石もごろごろして、ひざ下の水深でも足をすくわれる。こうした沢で過去に何度も登山者が流された。ロープを過信してはいけない」と話した。

高山市の北アルプスでは18日にも遭難が発生した。

黒部五郎岳（2840メートル）では、沢登りに入山した東京都世田谷区の57歳と49歳の男性2人が下山予定の16日を過ぎても戻らず、県警は18日午後、ヘリで捜索。同岳南側の金木戸川付近で2人を発見、救助した。けがはなく、川の増水で動けなくなったという。

朝日新聞社